

平成26年度
第2回 対策地域内廃棄物処理業務（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成26年4月18日（金） 13:00～14:00

場所：環境省東北地方環境事務所 福島環境再生事務所 北庁舎大会議室

出席委員（敬称略）

京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環資源基盤技術研究室 室長	倉持 秀敏
全国都市清掃会議 技術部長	荒井 喜久雄

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 飯舘村（蕨平）240 トン/日（120 トン/日×2 炉） 仮設焼却炉

II 検討内容

1. 飯舘村（蕨平）240 トン/日 仮設焼却炉

冒頭、IHI 環境・日揮・熊谷組廃棄物等処理業務共同事業体（以降JVと記載）より、業務内容について説明があった。

注：IHI 環境：株式会社 IHI 環境エンジニアリング

（1）焼却炉の形式

委員より、二つの炉の形式が異なっているが、処理する廃棄物の性状によって使い分けるのかとの質問があった。JVより高カロリーのもののは回転ストーカ炉、低カロリーのもののは流動床炉で主に処理する考えだがどちらの炉でも処理は可能であり、廃棄物の性状を考慮しながら焼却計画を立案するとの説明があった。

（2）焼却灰からの一酸化炭素発生について

委員より、焼却灰の未燃分による一酸化炭素等可燃ガスの発生について質問があった。

JV より、焼却灰は水封コンベヤで消火するので一酸化炭素の発生はないが、可燃性ガス発生可能性があるので十分な対策を講じるとの説明があった。委員より、危機管理体制を整備しておくべきとの助言があった。

(3) 焼却炉に付帯するボイラーで発生する蒸気について

委員より、ボイラーで発生した蒸気の利用について質問があった。JV より一部燃焼用空気の予熱に利用するが大部分は大気放散するとの説明があった。委員より、大気放散すると白煙が発生するので村には通知しておいたほうがよいとの助言があった。

(4) 運転員について

委員より運転員は同型炉での運転トレーニングを実施するのかなどの質問があった。JV よりまったく同じシステムというわけではないが、同型炉である流動床炉、回転ストーカ炉で班長級の運転員の運転トレーニングを検討しているとの説明があった。

また、委員より運転員は地元雇用するのかなどの質問があった。JV より環境省殿のご指導もあり、積極的に雇用に努めたいとの説明があった。

以上